

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	京都府亀岡市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	亀岡市文化遺産総合活用プラン		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～（平成23年度策定）では、亀岡市の文化歴史を守り、継承・活用することを通して、豊かな心と文化を育むまちづくりを進めている。また、亀岡市教育振興基本計画におけるめざす子ども像は、「ほっかほか心 ふるさと大好き かめおかっ子」とされ、学校・家庭・地域のあたたかい見守りの中で、ふるさとに誇りと愛着を持つ心を育むために、歴史・文化・自然を教育資源として最大限に活用し、これらに積極的に触れる機会を創出することとしている。</p> <p>亀岡市内には、亀岡祭山鉾行事や佐伯灯籠等の民俗芸能が多数ある。特に亀岡祭山鉾行事は、集客力も高く亀岡を代表する秋祭り、亀岡市では、山鉾行事に係る用具の修理新調や宵々山・宵宮の運営に対し亀岡祭山鉾行事保存継承事業補助金（社会教育課）、城下町散策・にぎわい創出事業補助金（観光戦略課）を交付している他、祭り期間の人的支援を行っている。また、平成23年度には、第26回国民文化祭京都2011が開催され、亀岡市では、民俗芸能の祭典、亀岡祭練り物行列の再現を実施した。この事業がきっかけとなり、亀岡市において民俗芸能の伝承に対する意識高揚がみられ、一過性のイベントではなく今後も地域の民俗芸能や祭りを継承するものとして取り組むとともに、これらをもとにした地域の絆づくりや観光振興など地域活性化を図ることとしている。</p> <p>また、市内において、地域らしさを示す景観や文化遺産についても関心が高まっており、行政や民間を問わず市内の様々な団体により、まち歩き等が実施されている。このため、これらの活動の助けとなるよう地域の文化遺産に関する情報発信を行い、価値の共有を図り、保護意識を高める必要が出てきた。</p> <p>以上のように、亀岡市総合計画及び亀岡市教育振興基本計画の目標を達成するため、上記の現状を維持向上させるとし、亀岡市内に所在する民俗芸能・民俗行事等の文化遺産を保存継承し、亀岡市民に地域の誇りとして再認識してもらおうとともに、市を訪れる人々にもその価値と魅力を感じてもらい、亀岡市への愛着心や訪問の動機を増長させ、地域の活性化を図る。また、計画期間中、地域資源活用実行委員会の事業を通じて、行政と民間団体、文化財保護団体等による連携・協力体制の確立を目指す。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、亀岡市が全体計画の調整、事業の指導等を行う。</p> <p>主な担当課、役割 社会教育課：文化財の取扱等に関する指導、地域資源活用実行委員会の事務支援 観光戦略課：観光業務に関する連携</p> <p>また、事業の実施については、次の団体が実施。 地域資源活用実行委員会（委員長：嵯峨根 彰） 構成団体（地域資源を掘り起こす会、佐伯灯籠保存会、亀岡祭山鉾連合会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 38,006 千円	平成29年度申請額： 13,758 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>市民の地域の文化遺産に対する関心や保存継承の意識が向上し、今後市民の力による地域の文化遺産の保存と次世代への確実な継承とともに、地域の活性化が期待される。地域の活性化の1つ目は、民俗芸能や民俗行事等が地域のコミュニティの核となるものであることから、これらの保存継承活動を通じて、地域コミュニティの強化・再生が期待される。2つ目は、地域らしさを示す民俗行事等を市内外に情報発信することで、個性ある地域としてPRし、『第4次亀岡市総合計画』で目標としているにぎわい人口の増加（目標値600万人以上）に寄与することができる。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

亀岡市では、平成元年に史跡丹波国分寺跡を中心とした川東地域（亀岡市千歳町・馬路町・旭町・河原林町・保津町）における文化財や自然を一体的に保存活用する『丹波NEW風土記の里』構想を策定した。現在は、この構想に基づき、史跡丹波国分寺跡の整備事業を実施している他、当該地域の自治会等と連携し、京都府景観資産への登録や各町に所在する重要文化財等の維持管理・修理事業等への支援を行っている。この構想をモデル事業と捉え、他の地域へも波及していこうと検討する中で、現在のところ「歴史文化基本構想」の策定等の見込みはないが、今後、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定をめざす可能性がある。

12 担当部局

地方公共団体
担当部局課

亀岡市教育委員会 社会教育課 文化財係

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	亀岡祭の観光観光入込客数			関連事業 :	①、②、③	
目標値 1 :	平成 28 年度 69,500 人 ⇒ 平成 33 年度 76,300 人					
設定根拠 1 :	第 4 次亀岡市総合計画前期計画 (5 か年) 観光入込客数の増加率 (実績) 9.8% を参考として、亀岡祭における観光入込客数の増加率も同数値と設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	亀岡祭城下町フェスティバルへの動員数			関連事業 :	①、②、③、④	
目標値 2 :	平成 28 年度 47,500 人 ⇒ 平成 33 年度 52,100 人					
設定根拠 2 :	第 4 次亀岡市総合計画前期計画 (5 か年) 観光入込客数の増加率 (実績) 9.8% を参考として、亀岡祭における観光入込客数の増加率も同数値と設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事への参加住民数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	亀岡祭山鉦行事における各山鉦町の住人参加者数			関連事業 :	④、⑤	
目標値 3 :	平成 28 年度 1,000 人 ⇒ 平成 33 年度 1,300 人					
設定根拠 3 :	亀岡祭山鉦行事における各山鉦町の住人参加者数の平成 28 年度実績に 30% 増とする。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
人	人	人	人	人	人	

事業④：	フォーラム地域のたからⅡ					実施団体：	地域資源活用実行委員会、亀岡祭山鉦連 合会				
事業区分：	普及啓発					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	亀岡祭懸装品ツアーや民俗行事等の用具に関わる伝統技術の体験ワークショップを開催する。										
評価指標区分：	・地域の文化遺産イベント等（本事業の取組を除く）における ソーシャルキャピタル数（協賛企業・団体、賛同者等）					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	独自で民俗芸能・民俗行事等の保存継承に関わるイベントを開催する保存会（自治会）の数										
目標値：	平成 28 年度		2 件		⇒		平成 33 年度		11 件		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
件	件	件	件	件	件						
事業⑤：	亀岡祭懸装品等の保全					実施団体：	亀岡祭山鉦連合会				
事業区分：	用具等整備					事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度				
事業概要：	亀岡祭山鉦行事（亀岡市指定無形民俗文化財/京都府登録無形民俗文化財）における山鉦を飾る 懸装品や山鉦躯体の修理を行う。										
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数					(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標：	亀岡祭山鉦行事への参加住人数										
目標値：	平成 28 年度		220 人		⇒		平成 33 年度		330 人		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
人	人	人	人	人	人						